

第 1 回 館山市議会定例会会議録

(第 5 号)

1 平成6年3月23日(水曜日)午前10時

1 館山市役所議場

1 出席議員 23名

1 番 秋山 光章
3 番 島田 保
5 番 宮沢 治海
7 番 鈴木 順子
9 番 脇田 安保
11 番 山崎 雅己
13 番 榎本 春光
17 番 鈴木 忠夫
19 番 川名 正二
22 番 福原 勤
26 番 辻田 実
28 番 飯田 義男

2 番 増田 基彦
4 番 斉藤 実
6 番 植木 馨
8 番 永井 龍平
10 番 庄司二三男
12 番 岩村 勝弘
15 番 山中金治郎
18 番 日下 君敏
21 番 神田 守隆
23 番 石井 昌治
27 番 横溝 功

1 欠席議員 3名

14 番 小宮 利夫
20 番 生稻 隆

16 番 鈴木 勝美

1 出席説明員

市長 庄司 厚
収入役 川上 義雄
総務部長 斉藤 賢司
経済部長 小沼 晃
水道課長 谷貝 実
選挙管理委員会
委員 加藤 利
監査委員 山田 教和
農業委員会
会長 斉藤 明

助 役 小幡 清之
市長公室長 永野 修
民生部長 渡辺 富雄
建設部長 三平 孝司
教育委員会
会長 高橋 博夫
選挙管理委員会
事務局書記 平嶋 倫治
監事 事務局
査長 島田 啓夫
農業委員会
局長 小倉 孝

1 出席事務局職員

事務局長 兵藤 恭一

事務局長補佐 鈴木 哲

書記 四ノ宮 朗

書記 安田 仁一

書記 小山 真

書記 松浮 郁夏

1 議事日程（第5号）

平成6年3月23日午前10時開議

- | | | | |
|------|---|--------|--|
| 日程第1 | { | 議案第10号 | 館山市議会議員及び館山市長の選挙における選挙運動の公費負担に関する条例の制定について |
| | | 議案第11号 | 館山市職員の勤務時間、休日、休暇等に関する条例の一部を改正する条例の制定について |
| | | 議案第12号 | 館山市総合保養地域重点整備地区における固定資産税の特例措置に関する条例の一部を改正する条例の制定について |
| | | 議案第13号 | 財産の取得について |
| | | 議案第14号 | 財産の無償譲渡について |
| 日程第2 | { | 議案第20号 | 平成5年度館山市一般会計補正予算（第5号） |
| | | 議案第15号 | 館山市公民館条例の一部を改正する条例の制定について |
| | | 議案第16号 | 館山市勤労青少年ホームの設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の制定について |
| | | 議案第17号 | 館山市民センター条例の一部を改正する条例の制定について |
| | | 議案第18号 | 館山市青年館の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の制定について |
| 日程第3 | { | 議案第21号 | 平成5年度館山市老人保健特別会計補正予算（第2号） |
| | | 議案第19号 | 市道路線の認定について |
| | | 議案第23号 | 平成5年度館山市水道事業特別会計補正予算（第3号） |

日程第4 請願第17号 地方バス生活路線運行維持補助制度の改善に関する請願書

| | | | |
|------|---|--------|------------------------|
| 日程第5 | { | 議案第 2号 | 平成6年度館山市一般会計予算 |
| | | 議案第 3号 | 平成6年度館山市国民健康保険特別会計予算 |
| | | 議案第 4号 | 平成6年度館山市老人保健特別会計予算 |
| | | 議案第 5号 | 平成6年度館山市ユースホステル特別会計予算 |
| | | 議案第 6号 | 平成6年度館山市学童災害共済事業特別会計予算 |
| | | 議案第 7号 | 平成6年度館山市下水道事業特別会計予算 |
| | | 議案第 8号 | 平成6年度館山市水道事業特別会計予算 |
| 日程第5 | { | 議案第 9号 | 平成6年度館山市国民宿舎事業特別会計予算 |

日程第6 議案第24号 工事委託協定の締結について

日程第7 議案第25号 人権擁護委員候補者の推薦について

日程第8 議案第26号 館山市助役の選任について

開 議 午前10時33分

◎議長（福原 勤君） 本日の出席議員数23名、これより第1回市議会定例会第5日目の会議を開きます。

議案の配付

◎議長（福原 勤君） 議案を配付いたさせます。

議案の配付漏れはありませんか。 — 配付漏れなしと認めます。

本日の議事はお手元に配付の日程表により行います。

議案の上程

◎議長（福原 勤君） 日程第1、議案第10号乃至議案第14号及び議案第20号の各議案を一括して議題といたします。

総務委員会委員長報告

◎議長（福原 勤君） ただいま議題となりました各議案は、3月10日の本会議において総務委員会に付託されたものであります。

よって、これより総務委員会における審査の経過並びに結果につき、委員長の報告を求めます。

総務委員会委員長植木 馨君。御登壇願います。

（総務委員会委員長植木 馨君登壇）

◎総務委員会委員長（植木 馨君） ただいま議題となりました議案第10号乃至議案第14号及び議案第20号に係る総務委員会における審査の経過並びに結果について御報告申し上げます。

去る3月10日の本会議におきまして本委員会に付託されました各議案につきまして、15日委員会を招集し、慎重に審査を行いました。

以下、その質疑応答等、主なものについて申し上げます。

議案第11号館山市職員の勤務時間、休日、休暇等に関する条例の一部を改正する条例の制定についてであります。勤務時間の短縮に伴い、職員定数の増を図る必要はないかとの質問に対し、現在職員数は定数を下回っているが、今後も事務事業の見直し等によって、増員を抑えながら定数管理を行っていききたいとの回答がありました。

次に、議案第20号平成5年度館山市一般会計補正予算（第5号）であります。まず衛生費、南房総広域水道企業団出資金につきまして、県営化に対する市長の所見を尋ねたところ、陳情を繰り返し、今回相当額を県が負担している。ほかの町の町長が県営化を要望したいとの考えを示した例もあるが、現状では選択肢として、こういう意見も踏まえて、幅広く意見を聞きながらやっていきたいとの考えが示されました。

次に、農業費中、米消費拡大推進事業補助金について、たまたま平成5年度は凶作であったが、それまでの米離れという状況の中で行っている事業であるとの説明がありました。また、米消費拡大と同時に、減反を緩和し、米生産拡大を行うべきではないのかとの質問に対し、平成5年度に比べ1,540ヘクタールの減反緩和という県の枠の中で17市が緩和されている。これは大きな水稲田があるところ、被害の大きいところに配分したと聞いている。

当市においては、温暖な地域性を生かした生産性の高い作物に変えており、農業者にもおおむね定着しているものと認識しているとの回答がありました。

同じく農業費中、豊房育成牧場業務管理委託料に関連して、跡地の利用方法について尋ねたところ、市としては仲立ちとして、よい利用方法の選択肢を地権者に対して示したいとの回答がありました。

討論において、南房総広域水道事業について厳しく認識していることについては評価するが、もう一步踏み出し、県営化を求めている。また、米問題について、減反政策の緩和を進め、米の生産拡大を図るべきである。これらの点から、今回の補正には同意できないとの反対意見がありました。

採決の結果、付託を受けました議案第10号乃至議案第14号については全員一致をもって、議案第20号については賛成多数をもって、いずれも原案どおり可決すべきものと決しました。

以上御報告申し上げまして、総務委員会委員長報告を終わります。

◎議長（福原 勤君） 以上で委員長の報告を終わります。

質 疑 応 答

◎議長（福原 勤君） ただいまの委員長報告について御質疑ありませんか。

— 御質疑なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

討 論

◎議長（福原 勤君） これより討論を行います。

通告はありませんでした。討論はありませんか。— 討論なしと認めます。よって、討論を終結いたします。

採 決

◎議長（福原 勤君） これより採決いたします。

採決は分割して行います。

まず、議案第10号乃至議案第14号について採決いたします。

各議案についての委員長報告は原案可決であります。

各議案を委員長報告どおり可決することに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

◎議長(福原 勤君) 御異議なしと認めます。よって、各議案はいずれも原案どおり可決されました。

次いで、議案第20号平成5年度館山市一般会計補正予算(第5号)について、起立により採決いたします。

本案についての委員長報告は原案可決であります。

本案を委員長の報告どおり可決することに賛成の諸君の起立を求めます。

(賛成者起立)

◎議長(福原 勤君) 起立多数であります。よって、本案は原案どおり可決されました。

議案の上程

◎議長(福原 勤君) 日程第2、議案第15号乃至議案第18号及び議案第21号の各議案を一括して議題といたします。

文教民生委員会委員長報告

◎議長(福原 勤君) ただいま議題となりました各議案は、3月10日の本会議において文教民生委員会に付託されたものであります。

よって、これより文教民生委員会における審査の経過並びに結果につき、委員長の報告を求めます。

文教民生委員会委員長島田 保君。御登壇願います。

(文教民生委員会委員長島田 保君登壇)

◎文教民生委員会委員長(島田 保君) ただいま議題となりました議案第15号乃至議案第18号及び議案第21号に係る文教民生委員会における審査の経過並びに結果について御報告申し上げます。

去る3月10日の本会議におきまして本委員会に付託されました各議案につきまして、15日委員会を招集し、慎重に審査を行いました。

以下、その質疑応答等、主なものについて申し上げます。

議案第15号館山市公民館条例の一部を改正する条例の制定についてであります。陶芸用炉、七宝焼用炉を無料化する理由について説明を求めたところ、多くの利用者からの要望があり、無料化することは利用促進につながり、最終的には社会教育の振興になるためとの説明がありました。さらに、陶芸、七宝焼については利用者が希望どおりに使用できるかとの質問に対しまして、希望日に利用できない場合もあるが、全体的には使用可能である。また、今後の計画として、中央地区学習等供用施設においても陶芸の工作室を設ける予定であるとの説明がありました。

次に、議案第16号館山市勤労青少年ホームの設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の制定についてであります。勤労青少年ホームの利用証を持っている者は、この条例改正により、ピアノの使用料が無料となるが、それ以外の利用者についてはどうか説明を求めたところ、それ以外の利用者については、社会教育の振興という見地に立って、申請の際に対応しているところであるとの説明がありました。

次に、議案第17号館山市民センター条例の一部を改正する条例の制定についてであります。老人福祉計画を進める上で第1会議室の使用はやむを得ないと思うが、将来的にはどう考えているか説明を求めたところ、民間の福祉活動の拠点として福祉協議会、各種ボランティア団体の中心となっており、事務所拡張により高齢者テレホンサービス事業等を行うが、計画の進捗の中で今後検討していきたい。また、文化ホール完成後の市民センターの運用をどう考えているかに対しまして、市民センターを含め、コミュニティセンター、公民館等を総合的に調査して、機能分配を検討していきたいとの説明がありました。委員から、適切な計画を立て、市民センターがより効果的に活用されるようにとの要望がありました。

議案第21号平成5年度館山市老人保健特別会計補正予算（第2号）についてであります。老人の健康増進についてどのような施策を行っているかとの質問に対しまして、老人福祉計画を策定した中で、福祉と保健課との連携を密にし、健康管理の指導をしていくとの説明があり、委員から病気の予防対策を今後も十分行うよう要望がありました。

採決の結果、付託を受けました議案第15号乃至議案第18号及び議案第21号については、全員一致をもって原案どおり可決すべきものと決しました。

以上御報告申し上げまして、文教民生委員会委員長報告を終わります。

◎議長（福原 勤君） 以上で委員長の報告を終わります。

質 疑 応 答

◎議長（福原 勤君） ただいまの委員長の報告について御質疑ありませんか。——御質疑なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

討 論

◎議長（福原 勤君） これより討論を行います。

通告はありませんでした。討論はありませんか。——討論なしと認めます。よって、討論を終結いたします。

採 決

◎議長（福原 勤君） これより採決いたします。

採決は一括して行います。

各議案についての委員長報告は原案可決であります。

各議案を委員長報告どおり可決することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎議長（福原 勤君） 御異議なしと認めます。よって、各議案はいずれも原案どおり可決されました。

議案の上程

◎議長（福原 勤君） 日程第3、議案第19号及び議案第23号の各議案を一括して議題といたします。

建設経済委員会委員長報告

◎議長（福原 勤君） ただいま議題となりました各議案は、3月10日の本

会議において建設経済委員会に付託されたものであります。

よって、これより建設経済委員会における審査の経過並びに結果につき、委員長の報告を求めます。

建設経済委員会委員長秋山光章君。御登壇願います。

(建設経済委員会委員長秋山光章君登壇)

◎建設経済委員会委員長(秋山光章君) ただいま議題となりました議案第19号及び議案第23号に係る建設経済委員会における審査の経過並びに結果について御報告申し上げます。

去る3月10日の本会議におきまして本委員会に付託されました各議案につきまして、14日委員会を招集し、慎重に審査を行いました。

以下、その質疑応答等、主なものについて申し上げます。

議案第19号市道路線の認定についてであります。市道の認定基準について説明を求めたところ、幅員4メートル以上で、起点及び終点が幅員5メートル以上の国道、県道、市道に接していることが認定条件となるが、公共性、利用度が高い、あるいは家屋が連続し、または集落を結ぶ等の状況を考慮して認定しているとの説明がありました。

次に、議案第23号平成5年度館山市水道事業特別会計補正予算(第3号)についてであります。補正の内容について説明を求めたところ、国の第3次補正に伴うもので、主なものは、資本的支出において、当初南房総広域水道企業団と共同施行する予定であったが、補助金の交付時期の関係により、共同施行を翌年度に繰り延べたため、負担金から工事請負費に1億3,000万円繰りかえ、市の事業として配水管布設工事をしようとするものであるとの説明がありました。

採決の結果、付託を受けました議案第19号及び議案第23号については、全員一致をもって原案どおり可決すべきものと決しました。

以上御報告申し上げまして、建設経済委員会委員長報告を終わります。どうもありがとうございました。

◎議長(福原 勤君) 以上で委員長の報告を終わります。

質 疑 応 答

◎議長（福原 勤君） ただいまの委員長報告について御質疑ありませんか。

— 御質疑なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

討 論

◎議長（福原 勤君） これより討論を行います。

通告はありませんでした。討論はありませんか。— 討論なしと認めます。
よって、討論を終結いたします。

採 決

◎議長（福原 勤君） これより採決いたします。

採決は一括して行います。

各議案についての委員長報告は原案可決であります。

各議案を委員長報告どおり可決することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎議長（福原 勤君） 御異議なしと認めます。よって、各議案はいずれも原案どおり可決されました。

請願書の上程

◎議長（福原 勤君） 日程第4、請願第17号地方バス生活路線運行維持補助制度の改善に関する請願書を議題といたします。

総務委員会委員長報告

◎議長（福原 勤君） ただいま議題となりました請願第17号は、3月10日の本会議において総務委員会に付託されたものであります。

よって、これより総務委員会における審査の概要につき、委員長の報告を求めます。

総務委員会委員長植木 馨君。御登壇願います。

（総務委員会委員長植木 馨君登壇）

◎総務委員会委員長（植木 馨君） ただいま議題となりました請願第17号に係る総務委員会における審査の結果について御報告申し上げます。

去る3月10日の本会議におきまして本委員会に付託されました請願書につきまして、15日に招集された委員会において審査を行いました。

委員会開会前に請願内容について請願者から説明を求め、審査の結果、本請願につきましては全員一致をもって採択するものと決しました。

以上御報告申し上げます、総務委員会委員長報告を終わります。

◎議長（福原 勤君） 以上で委員長の報告を終わります。

質 疑 応 答

◎議長（福原 勤君） ただいまの委員長報告について御質疑ありませんか。

— 御質疑なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

討 論

◎議長（福原 勤君） これより討論を行います。

通告はありませんでした。討論はありませんか。— 討論なしと認めます。よって、討論を終結いたします。

採 決

◎議長（福原 勤君） これより採決いたします。

本請願についての委員長報告は採択するであります。

本請願を委員長の報告どおり採択することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎議長（福原 勤君） 御異議なしと認めます。よって、本請願は採択することに決しました。

日程の追加

◎議長（福原 勤君） お諮りいたします。

ただいま採択されました請願書に附帯する発議案第1号地方バス生活路線

運行維持補助制度の改善に関する意見書についてが提出されました。この際、本案を日程に追加し、議題といたしたいと思います。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎議長（福原 勤君） 御異議なしと認めます。よって、本案を日程に追加し、議題とすることに決しました。

議案の上程

◎議長（福原 勤君） 発議案第1号地方バス生活路線運行維持補助制度の改善に関する意見書についてを議題といたします。

議案の配付

◎議長（福原 勤君） 議案を配付いたさせます。

（議案配付）

◎議長（福原 勤君） 議案の配付漏れはありませんか。 — 配付漏れなしと認めます。

議案の朗読は省略いたします。

議案の内容説明

◎議長（福原 勤君） 提出者の説明を求めます。

植木 馨君。

（6番議員植木 馨君登壇）

◎6番（植木 馨君） ただいま議題となりました発議案第1号地方バス生活路線運行維持補助制度の改善に関する意見書について、提案理由を御説明申し上げます。

本議案につきましては、ただいま採択されました請願書の趣旨を体しまして、関係機関に意見書を提出いたしたく、7名の賛成者を得まして提出した次第でございます。

満場の御賛同を賜りますようお願い申し上げまして、提案理由の説明とい

たします。

◎議長（福原 勤君） 説明は終わりました。

質 疑 応 答

◎議長（福原 勤君） これより質疑を行います。

御質疑ありませんか。 — 御質疑なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

委員会付託の省略

◎議長（福原 勤君） お諮りいたします。

本案については委員会の付託を省略したいと思います。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎議長（福原 勤君） 御異議なしと認めます。よって、委員会の付託を省略することに決しました。

討 論

◎議長（福原 勤君） これより討論を行います。

討論はありませんか。 — 討論なしと認めます。よって、討論を終結いたします。

採 決

◎議長（福原 勤君） これより採決いたします。

本案を原案どおり可決することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎議長（福原 勤君） 御異議なしと認めます。よって、本案は原案どおり可決されました。

議長の報告

◎議長（福原 勤君） なお、この際申し上げます。

各常任委員会における陳情審査結果が報告されております。お手元に配付の印刷書により御了承願います。

議案の上程

◎議長（福原 勤君） 日程第5、議案第2号乃至議案第9号、平成6年度各会計予算を一括して議題といたします。

予算審査特別委員会委員長報告

◎議長（福原 勤君） ただいま議題となりました各会計予算は、3月14日の本会議において特別委員会を設置し、付託されたものであります。

よって、これより本予算に対する予算審査特別委員会における審査の経過並びに結果につき、委員長の報告を求めます。

予算審査特別委員会委員長辻田 実君。御登壇願います。

（予算審査特別委員会委員長辻田 実君登壇）

◎予算審査特別委員会委員長（辻田 実君） ただいま議題となりました議案第2号乃至議案第9号、平成6年度館山市一般会計予算並びに特別会計予算に係る予算審査特別委員会におきます審査の経過並びに結果について御報告申し上げます。

去る3月14日の本会議において設置されました本委員会を16日招集し、付託を受けました各予算案につきまして慎重に審査を行いました。

審査に当たっては、延べ30にわたる項目について質疑応答が行われましたが、以下、整理いたしまして、その概要を御報告申し上げます。

まず、一般会計歳出であります。第2款総務費であります。財産管理費中、委託料においてボイラー運転業務委託料、電気工作物点検委託料、市庁舎別棟建設工事監理委託料が新規計上され、約2,000万円増額されていることについて説明を求めましたところ、市庁舎別棟建設工事監理委託料については工事を施行することに伴うものであるが、他の2点については、人事配置その他を考慮した上で、効率的な運営のために委託するものであるとの説

明がありました。それに対し委員から、ボイラー運転業務及び電気工作物点検については、資格を有する職員の配置等により節約できないかとの指摘がありました。将来にわたっての経費その他を考えた場合、委託の方が有利であるとの回答がありました。

また、コミュニティセンター用地利用計画策定委託料に関しまして、文化ホール、南房学園の進捗状況等の説明を求めましたところ、文化ホールについては、平成5年度で基本設計が終了し、平成6年度において実施設計が行われる。南房学園については、県の新年度予算において調査費が計上されたところである。今回の委託料については、このような状況の中で、バイパス西側の部分について、調整池、駐車場の配置等を検討するためのものであるとの説明がありました。

また、交通安全施設整備工事請負費に関しまして、交通安全施設の内容と設置後の維持管理についての質問に対し、交通安全施設には反射鏡、ガードレール、警戒標識等があり、その維持管理は職員による巡回、住民からの情報提供により確認しているとの説明がありました。また、委員から、危険と思われる箇所がまだあるので、さらに積極的に交通安全の確保に努めてほしいとの要望がありました。

次に、第3款民生費であります。老人日常生活用具交付扶助費につきまして、緊急通報システムの導入状況を尋ねたところ、現在7人が利用しており、また社会福祉協議会が貸し出し用として39台を設置している。いずれもあらかじめ指定した近所の方へ通報されるシステムとなっているとの回答がありました。また、委員から、利用者数が少ないので、さらに積極的にPRをしてほしいとの要望がありました。

次に、第4款衛生費であります。合併処理浄化槽設置事業補助金について、今年度の実施状況を求めたところ、当初予算で30基を見込んだが、見込みを上回ったために12月補正で増額させていただき、決算見込みは75基である。今回は当初において50基を見込んだものであるとの説明がありました。また、関連して委員から、水利組合等の理解が得られず、合併処理浄化槽の設置ができないということを耳にすることがあるが、そのようなときは市が

仲介役として説得し、合併浄化槽の普及に努めてほしいとの要望がありました。

また、水道事業特別会計第3次拡張事業出資金につきまして、事業の全体像、進捗状況について説明を求めたところ、新しい拡張区域及び既給水区域の配管、浄水場の改良が主な事業である。現在出野尾配水場に配水池の躯体工事が終わり、配水管布設は今年度末で約13キロメートルが終了するという状況である。なお、来年度において出野尾配水場については工事が終わる予定であり、配水管布設は拡張区域16キロメートルと既給水区域 3.7キロメートルを予定している。また、山本浄水場について改良工事を予定しているとの説明がありました。

次に、第6款農林水産業費でございますが、農政審議会委員報酬につきまして、委員の定数は14名であるが、現員は13名、年3回の会議を開催し、転作の関係、農業振興地域の見直し等について審議がされているとの説明がありました。また、委員から、農政面について貴重な意見を多くいただき、農業関係者とよく話し合い、館山の農政の確立を考えてほしいとの要望がありました。

次に、第7款商工費であります。商工業振興費の中で、安房地域卸売市場開設促進協議会負担金について説明を求めたところ、安房地域における卸売市場の整備を目的に、平成5年12月に安房支庁産業課を事務局として協議会が発足し、市場の統合に向けての見方や消費者のニーズ等の基本調査をしている。なお、この調査を受けて、市場開設に向けての樹立計画策定を平成6年度委託するとの説明がありました。

また、公衆トイレ清掃委託料及び公衆トイレ建設工事請負費について、工事請負費については相浜ゲート跡地にトイレを設置するものであるとの説明があり、また公衆トイレの清掃管理の状況はどうかとの質疑に対し、それぞれのトイレを老人会を含む地元の協力、高齢者働く会及び清掃管理業者が行っているとの説明がありました。今後も観光客等が気持ちよく利用できるような管理に努めてほしいとの要望がありました。

次に、第9款消防費であります。操法大会講師謝礼に関連して、操法大

会が地元あるいは選手に大きな負担になっているという状況があるが、市はどのように考えているか説明を求めたところ、操法大会は千葉県消防協会並びに同協会安房支部で実施しているものであり、館山市単独で決めるものではないが、全体の意見としては、大会は消防団員にとって必要な訓練であり、引き続き実施していく考えであるとの説明がありました。なお、委員から、朝夕の訓練の中で選手の家族が大変な犠牲になるので、消防団員の家族に対する表彰等を考えてほしいとの要望がありました。

次に、第10款教育費であります。文部省で示された学校図書館図書整備新5カ年計画についての対応はどうかとの質疑に対し、この計画によると、平成9年度までに現在の学校図書館の蔵書を1.5倍にふやすという内容であるが、平成6年度においては読書指導、図書館指導を行い、現在ある図書の活用を図り、平成7年度以降順次図書をふやしていきたいと考えているとの説明がありました。

体育施設費中、東市民運動場体育館改修工事について説明を求めたところ、同体育館は外壁等が老朽化しているため、社会体育施設として安全に利用できるように改修するものであるとの説明がありましたが、医師会の用地借用申し込みもあるので、十分調整を図られたいとの意見がありました。

さらに、社会体育施設の整備に関連して、市民運動場にナイター施設を設置してほしいとの要望がありました。

次に、平成6年度予算全体を通して、委員から、現在の厳しい状況の中、予算を執行する上で、市としては景気対策をどのように考えているかとの質疑に対し、苦しい財政状況の中、昨年を上回る事業の前倒し発注や、財政調整基金を6億5,000万円繰り入れ、予算規模の拡大並びに積極的な施策を推進することにより、地域経済の活性化に配慮したとの説明がありました。今後も市のためにより有効な予算執行に努めてほしいとの意見がありました。

次に、歳入であります。市たばこ税が前年度に比べふえているが、確保はどうか。また、特別土地保有税が前年より減っている理由について説明を求めたところ、市たばこ税は、昨年の実績等を勘案し、計上したもので、確保できていると考えている。特別土地保有税については、土地の保有期間が10年

を経過すると非課税となり、今回はそれに該当するものが多かったためとの説明がありました。

以上が主な質疑応答等の概要であります。

採決の結果、付託を受けました議案第2号乃至議案第9号の一般会計及び特別会計予算については、全員一致をもってそれぞれ原案どおり可決すべきものと決しました。

以上、本特別委員会における審査の概要につきまして御報告申し上げましたが、市当局におかれましては、今後の予算執行、行政運営に当たり、本特別委員会における要望、指摘事項等を十分に配慮されるよう要望いたしまして、予算審査特別委員会委員長報告を終わります。

◎議長（福原 勤君） 以上で委員長の報告を終わります。

質 疑 応 答

◎議長（福原 勤君） ただいまの委員長報告について御質疑ありませんか。

— 御質疑なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

討 論

◎議長（福原 勤君） これより討論を行います。

通告がありますので、発言を許します。

21番議員神田守隆君。御登壇願います。

（21番議員神田守隆君登壇）

◎21番（神田守隆君） 議案第2号平成6年度館山市一般会計予算に反対の討論を行います。

新年度当初予算では、生活環境整備などでこれまで懸案となっていた事業を実施するなど、賛成すべき点もございます。特に、十数年来の懸案事項であった学童保育事業について、ようやく実施に向けての補助金が計上されたことは評価いたします。今後こうした学童保育事業への助成の充実が望まれます。また、高齢者及び身体障害者住宅改造への助成事業が計上されておりますが、この事業は予算額も少なく、市の単独事業ではありますが、福祉

充実へのこの市長の姿勢は評価をするところであります。

しかしながら、以下の点について庄司市長の政治姿勢を容認することはできません。それらの点を指摘し、反対討論といたします。

まず第1点は、市政の原点は住民の暮らしを守ることであり、この立場にしっかりと立って、国や県に対しても言うべきは堂々と言っていくという政治家としての姿勢の問題であります。そうした政治姿勢こそ市民が支持するものと思うのであります。

南房総広域水道事業は、当初計画事業費を約 200億円もオーバーすることになり、これによる市の新たな出資金も17億 6,900万円が見込まれます。このため、新年度当初予算においては、従来の計画より約4億円増の出資金が計上されました。200億円もの事業費用の見込み違いを生じて、一体だれが責任をとるのでありましょう。そもそもこの事業は、県の工業用水の余り水を、南房総地域のリゾート開発に伴う水不足にかこつけて、その水源に充てようということから始まったものと思います。この事業は南房総17市町村の共同事業の体裁をとってはおりますが、千葉県はこの事業の計画段階から重大な責任を負っており、この事業は県営事業に移管すべきであります。庄司市長は同じ県民として均衡ある料金でなければならないとの答弁をしているわけですが、だとすれば、それには事業の県営化を関係市町村とともに強く県に求め、運動すべきであります。この点を強く主張するところであります。

次に、消費税についての市長の政治姿勢の問題であります。事実上の消費税増税であります国民福祉税について、市長の所見を3月8日の行政一般質問でお尋ねしたところでありますが、市長の答弁は、国政の場で論議し、国民各層の納得のいく税体系を構築することを期待するというもので、残念ながら市長自身の考え方がどこにあるのか感じられないものでありました。同じ日に浦安市の熊川市長は市議会の答弁で、国民福祉税は大反対、赤字国債のために7%にするのは大反対、真夜中の記者会見をやって、その晩のうちに白紙撤回する、わびて済むものではない、私ならやめていると、国民福祉税に真っ向から反対だという政治家としての信念と見解を表明しております。

一たん引き下げたとはいえ、細川首相はこの大增税導入をあきらめたわけではありません。改めて国民福祉税にきっぱりと反対の立場を示すよう重ねて求めるところであります。

第2点は、市の行政が国の指針や水準よりも極めておくれている、あるいは低かったりする点があることであります。このため、市民の福祉が他の町村よりもおくれしてしまうことが懸念されるわけであります。

まず、老人保健福祉計画をめぐる問題であります。福祉行政は、これまでの窓口で申請を待つというあり方から、積極的に行政需要を想定し、それに沿ってどのような福祉水準を目指すのかという社会政策的な発想の仕方に変換をし、これまでの福祉行政の大変革が求められているところであります。福祉行政には大胆な発想の転換が今求められているかと思うのであります。こうした点から見ると、館山市の老人保健福祉計画は極めて不十分なものと指摘せざるを得ません。例えば、ホームヘルパーの必要数について、65歳以上の高齢者比率で全国10万人のホームヘルパーを案分すると、館山市は67人になりますが、市の計画は54人で、13人も少なく、全国目標水準の8割でしかありません。こうした低い水準になった要因は、寝たきり老人等の要介護老人へのサービスの目標量を最低水準の週3回に設定したことや、家族の介護力を過大に評価していることであります。核家族化や女性の社会参加、共働きの増大などで家族の介護力は確実に低下しつつあります。この現実に関し福祉施策がおくれを来しているがために、治療の必要がないにもかかわらず、老人病院などへの長期入院者が現実にはたくさん生まれているのであります。館山市では、寝たきり老人の実に42%が長期入院者で占められております。既に現在でも老人福祉を家族の介護力に依存していますが、それは結果的に老人福祉の軽視となりました。このために、このような社会的入院と呼ばれる大量の長期入院者を生み出してきたのであります。家族の介護力を過大に評価するということは、とりもなおさず福祉の水準が低くてもよいという格好の口実になっております。こうした愚を繰り返してはなりません。国の目標水準は、こうした現実から見るとき、極めて控え目の水準でしかありません。これさえも下回る館山市の目標水準は見直すべきであります。この点を

強く指摘するものであります。

なお、これらの社会的入院のために、本来負担する必要のない莫大な医療費負担を私たちは現にしておりますが、福祉水準の向上はこれらをなくし、総合的には負担を軽減するものであります。老人福祉の充実は老人医療費の軽減の効果を生み出し、中長期的には十分おつりの来ることだという点を指摘しておきたいと思えます。

次に、リゾート計画推進を支援という市長の政治姿勢の問題であります。リゾート開発の熱狂は過去のものとなりました。バブル崩壊を契機に、全国各地でリゾート開発計画は撤退、中止など、破綻をしてきております。総務庁はことし1月にリゾート計画の見直しを指導するよう国土庁に勧告いたしました。にもかかわらず、市長の施政方針はリゾート計画推進を支援していくというものであります。もはや破綻した路線にいつまで未練を持ち続けるのでしょうか。リゾート開発は大企業にもうけ口を提供するだけの乱開発であってはなりません。リゾート計画は根本的な見直しをするよう主張するわけであります。

こうした立場から、次の4つの条件を提唱いたします。その条件は、まず第1に、大企業、開発企業任せではなく、地元中心、住民参加で計画し、実行すること。第2に、自然を生かし、自然との共存を図ること。第3に、地元雇用の拡大、農漁業等、地元産業の多面的発展と結びつけること。第4に、都市勤労者が安い費用で楽しめるレクリエーションと保養施設のネットワークづくりを基本とすること。

本年は市長選挙の年であります。4年前庄司市長は、中央企業主導のリゾート計画を見直す必要があります。私たちにとってプラスになるかどうか、もしそうでない部分があったらどんどん要望をすべきですと主張して市長に当選をいたしました。この公約を実行するよう求めます。

次に、都市計画税についてであります。安房郡市で都市計画税を課税しているのは館山市だけあります。市街化区域、市街化調整区域の線引きがまだされていないいわゆる未線引きの県内10市の中で都市計画税を課税しているのは7市ありますが、そのうち制限税率いっぱいまで課税しているのは

館山市と佐原市の2市にすぎません。館山市は最も高い税率ということになるわけであります。固定資産税が評価がえに伴って増税となっているときだけに、この都市計画税のあり方について見直しを進め、税率を引き下げるよう求めるところであります。

以上の点を指摘し、私の反対討論といたします。

◎議長（福原 勤君） 以上で神田守隆君の討論を終わります。

以上で通告者による討論を終わりますが、通告をしない議員で討論はありますか。――討論なしと認めます。よって、討論を終結いたします。

採 決

◎議長（福原 勤君） これより採決いたします。

採決は分割して行います。

まず、議案第2号平成6年度館山市一般会計予算について、起立により採決をいたします。

本案についての委員長報告は原案可決であります。

本案を委員長の報告どおり可決することに賛成の諸君の起立を求めます。

（賛成者起立）

◎議長（福原 勤君） 起立多数であります。よって、本案は原案どおり可決されました。

次いで、議案第3号乃至議案第9号、平成6年度館山市各特別会計予算について、一括して採決いたします。

各議案についての委員長報告は原案可決であります。

各議案を委員長の報告どおり可決することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎議長（福原 勤君） 御異議なしと認めます。よって、各議案はいずれも原案どおり可決されました。

議案の上程

◎議長（福原 勤君） 日程第6、議案第24号工事委託協定の締結について

を議題といたします。

議案の朗読を願います。

(書記朗読)

◎議長(福原 勤君) 朗読は終わりました。

議案の内容説明

◎議長(福原 勤君) 議案の説明を求めます。

庄司市長。

(市長庄司 厚君登壇)

◎市長(庄司 厚君) 議案第24号工事委託協定の締結についてでございますが、館山市公共下水道鏡ヶ浦クリーンセンターの建設工事委託につきまして、日本下水道事業団と50億円をもって館山市公共下水道根幹的施設の建設工事委託に関する基本協定の締結をしようとするものでございます。

工事委託内容といたしましては、第1期事業区域にかかわる終末処理場の水処理施設、汚泥棟及び管理棟の建設工事を委託しようとするもので、建設工事は平成5年度に着手し、その完成予定は平成10年度とするものでございます。

よろしく御審議のほどお願いいたします。

◎議長(福原 勤君) 説明は終わりました。

質疑応答

◎議長(福原 勤君) これより質疑を行います。

御質疑ありませんか。

辻田 実君。

◎26番(辻田 実君) 3点について御質問を申し上げます。

まず第1点でございますけれども、今までこの種の施設——具体的にはごみ処理場、さらにはし尿処理場、これにつきましては、私は過去4回にわたりましていろいろと協議に参加してきたわけでございますけれども、いずれも今回の規模と同じぐらいの大型規模でございますけれども、この工事委託

に至る前に相当の説明が議員等にありましたし、そして議会も同じような施設を視察して、そしてその業者等も呼んでいろいろ説明を受けて、幾つか何とか方式だとか何とか方式というものを提示されまして、それを検討した上でもって、最終的にこれに決めて契約をしよう、こう持っていきましたものですから、今の東長田のセンターにいたしましても、どういう方式で、どういう会社があればに参入してあそこに選ばれたかというふうなことも相当私も知識あったんですけれども、今回のこの件については、いろいろと取り組みについての状況は報告されておりましたけれども、具体的にどういうもので、どういうものができるのか。二、三日前に模型ができました。あれがどうなのか、どういう設計でもってどういうものを委託するのか。今までいろんな調査等がありましたけれども、具体的な設計でもって、今言った内容的な説明も私は受けておらないんですけれども、どこかでそういうのがあったのかどうなのか。そういう段階でもって、しかも随意契約でもって——非常に立派な事業団であるようでございますから、これはさておいて、そこに一任してしまうということがどうなのか。ちょっと私の経験からいくと前例がないものですから、この点についてお伺いをしたいということが第1点。

第2点目は、ここに鏡ヶ浦クリーンセンター建設というふうになっているんですけれども、この名称はいろんな広報その他において名前は出てきております。議会に正式に議案として出てくるのは初めてではないかと思うんですけれども、大抵この種のものについては仮称というようなものが出ております。これは私のちょっと聞き違いかどうか分かりませんが、あのセンター等については何か公募して云々というような話もあったようでございますけれども、公募されてやったのかどうか、その点について私は錯覚しているのかどうなのか。また、その公募をして、その中からこういう形でもって選んで決定されたというような経過があったのか、それについて私が聞き漏らしたというんですか、聞かなかったということなのか、私ちょっとその点について分かりませんが、名前としては非常にいい名前でございますけれども、どこでどういうふうに決定されたのか、そしてどういう形でもって市民の方に広報されていったのか、この点について。しつこいようでご

ざいますけれども、他の市の視察に行った場合に、清水なんかの場合、清水市公共下水道事業ということでもって進むと、それじゃ余り色気がないし、殺風景なので、公募して何とかセンターとか、きれいな名前をつけてやった、こういうようなことも幾つか聞いております。館山もそういう方式をとるのかどうかと思って、とるとらないは別としまして、どこでそういうことが正式に決定されたのか、仮称でないというのはどういうことなのか、この点についてお伺いいたしたい。これから名前が出てきて、いつどこでどう決まったんだ。いい名前だなと言われた場合に、だれが提案して、どこでどう決めたのかぐらい議員として知っておきたいと思いますので、ひとつ — 悪意であれするわけじゃありませんので、名前としては立派だと思いますので、そこら辺について、いつだれがどういう形でもってやったのか、決定されたのか、仮称なのか、これから公募とか、そういうものを考えておるか、考えておらないかを含めて、ひとつどのように考えておるのか伺わせていただきたい。

それから3番目に、全員協議会の中でもって若干出ましたけれども、随意契約になるわけでございますけれども、この種の随意契約ということでございまして、今言ったような設計なり、そういうものが、あそこにあるものがもう決定的なものなのか、もっとあれ以上に細かいもの — どういう処理方法があるのか。いろんな方式もあるようでございます。そういうものがどういうものの中から選ばれていったのか、そういうものは市としてはやらなかったのか。特に、ここの下水道事業団と委託契約しちゃえば、そこで全部やってもらっていっちゃうということになるのか。そして、ここでもう随意契約するわけでございますから、そこが工事をやらないということでもって、そこがまた発注に出すということでございますけれども、そこでは公共事業的な入札というものが館山市を離れて、また再度入札という形でもってやられるのか、そこらについて具体的に — 私もこういうことについては初めてのケースになりますので、ひとつ教えていただきたいと思います。

以上3点について御質問申し上げますので、よろしくお願いいたします。

◎議長（福原 勤君） 建設部長。

◎建設部長（三平孝司君）　まず、第1点目の工事の委託の中で処理方式等の問題でございますが、この公共下水道につきましては分流式処理でございます。汚泥を処理する方式といたしましては、現在全国的に技術的に確立されております標準活性汚泥法でございます。それで、当然委託する以前に、千葉県あるいは建設省との協議の中で、先ほど申し上げました分流方式で、標準活性汚泥法処理ということで決定されておまして、委託をしてから決定ということではございません。

次に、2点目でございますが、名称につきましては、ちょっと手元に細かい資料、何月ということはございませんが、過去に幾つかの案がございまして、皆さん方にも御相談申し上げて、最終的には市の方で決定をされたということでございます。

それから、3点目の随契の理由の中で、下水道事業団において公共入札をするのかということでございますが、これにつきましても当然公共入札によりまして事業を執行するということでございます。

以上でございます。

（何事か呼ぶ者あり）

◎議長（福原 勤君）　建設部長。

◎建設部長（三平孝司君）　2番目の名称につきまして先ほど申し上げましたが、詳しくはちょっと資料が手元にございませんが、何案か出まして、皆さん方に御報告申し上げて、最終的には市の方で決定したという経緯がございます。

◎議長（福原 勤君）　辻田 実君。

◎26番（辻田 実君）　再度3点についてお伺いします。

1点は、今回のものが分流式活性汚泥法であるということでございますので、これについてはいろんなパンフレットその他でもって若干見たような感じもいたしますけれども、いずれこういうようなものについて論議が行われたというふうに思うんですけれども、私はこういう論議に参加していません。一議員大したことないから、私が相談に乗らなかったからどうってこともないでしょうけれども、1年生のときからでも、他のさっき言ったような処

理場をつくったり、終末処理場をつくったりするときには、かなり意見が出たり視察に行ったりして、もうしつこいぐらい勉強させられたんですけれども、今回なかった。今の時代はもうそういう時代じゃなくて、合理的だから、余り議会等でもってそんな論議を、一々全議員に徹底させて、論議を巻き起こそうなんていうことじゃなくて、もうさっさとやっていけばいいんだという合理主義になったのかどうなのか、そこら辺はひとつ市長に聞くけれども、それが市長の超近代的な合理化して、議会までも合理化した形でもってこれらの問題を処理していこうという姿勢なのかどうなのか、この点について伺いたい。

2 番目に、今部長の答弁の中にもありまして、議会等皆さんにお諮りした。いつどこでもってこういう分流式だとか何とか式だとかといういろんなものを検討して、いつどこで決めたんですか。私は建設等じゃなかった。ずっと総務委員会におったものですから、総務委員会にはそういうのもなかったようですし、こういうところも出てこなかった。今までだと、かなりそれは全議員がそれに参加するような機会もあって知っているんですけれども、今回の場合はあっという間でもって、私はこれについてどうこうとは言いませんけれども、今までは必要以上に教えられて、こういうものだとかわかった上でやったんですけれども、皆様にお諮りしてというその皆様というのはだれにいつどこで、どういう経過を経てこういうことに決定してきたのか、少し詳しいようでございますけれども、教えていただきたい。

名称についても、いろんな人から意見を出してもらったということで、そしてこれも皆さんにお諮りしたということですが、いつどういう形でもってどういう範囲から応募してもらって、そして皆様の — 皆様というのはだれですか。だれとだれによって、どういう形でもって諮って決めてもらったんですか。議会にはそういうことは出てこなかったのかどうなのか、そこら辺について。しつこいようでございますけれども、ここら辺はやっぱりけじめをつけていかないと、政治姿勢の問題でございますから、私どもがどうこう言うものじゃありませんけれども、議員が全くそういうものに参加していかないとどんどん、どんどん事が運ばれるということになりますと、議

員としての問題にもかかわってきますので、そこら辺についてひとつ御説明をいただきたい。

以上3点について再度御質問申し上げます。

◎議長（福原 勤君） 建設部長。

◎建設部長（三平孝司君） 1点目の処理方式の選定でございますが、議員さんの方からごみ、し尿につきましての参考事例が出ましたけれども、ごみ、し尿につきましては、処理方式はいろいろございます。何通りかのそれぞれの処理方式がございますが、先ほど私から申し上げましたように、下水の処理につきましては標準活性汚泥法というのが全国規模で技術的に確立されております。したがって、ほとんどの処理がこの方式で通っておりますので、この標準活性汚泥法を選定をしたということでございます。

それと、議会等の報告あるいは名称につきましては、手元にちょっと細かい資料がございませんので、取り寄せて報告いたします。

以上でございます。

（何事か呼ぶ者あり）

◎議長（福原 勤君） 建設部長。

◎建設部長（三平孝司君） 説明のことでございますが、基本計画、事業計画、都市計画決定、それぞれについて全協において説明をいたしてございます。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 暫時休憩いたします。

午前11時41分 休憩

午前11時49分 再開

◎議長（福原 勤君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

建設部長。

◎建設部長（三平孝司君） まず、いつの時点ということでございますが、平成3年の12月13日の日に用地を含めまして基本計画、事業計画等について御説明してございます。

それと、名称につきましては、内部で検討をいたしました結果、ここにありま

す鏡ヶ浦クリーンセンターということで、今申し上げました3年の時点でそのように説明してございます。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 辻田 実君。

◎26番（辻田 実君） はい、わかりました。

何か答弁の中でも — はっきり言ってください。別に私は挙げ足とろうと思っていないんですから。皆さんの了解とってありますなんて冗談じゃないです。私なんかも真剣にやっているんですから、そんなにもうろくしていませんから、大体覚えていますから、反対しませんから、何かそういううやむやした格好でやられると — そこら辺きちんとしましょう、お互いに。だから、それはもう、名称の問題はいいです。

もう一つ、名称の問題を市長がどこかで — 私1度ならず2度、3度聞いておったんですけれども、名称をみんなに公募して、いいのをやりたいというようなことを聞いておったんですから、事務局あたりで決めちゃって、市長の非常にいいところを — 市民に聞いて、市民の処理場にするために名前を公募しましょうなんていうことを聞いた覚えがあるんです。また、そうしてもらいたかったと思ったんですけれども、何かどこかでもってぼっと出てきちゃった。これは普通の場合、仮称で大抵出てくるんです。議会でもって議決すると、これはここでもって正式に決定です。名前の決定。これを決定しちゃう、ここで承認しちゃうということは、同時にもう公募できないということです、早い話が。だから、私は公募の余地があったんじゃないかというふうな感じが — それをやってやることは、市長にとっても非常に市民とのつながりでいいというふうな感じなんですけれども、事務局だけで処理する問題じゃないと思うんですけれども、そこら辺どのように考えておったのかという点について、市長ないし担当者から — その点だけでいいです。ひとつ明快に聞きたい。これ質問ですから。

2番目には、この工事請負について今質問したようにやりますと、いろいろ審議して、それは12月の土地買収のときにこうだこうだと言いましたけれども、あれではどういうものでどうかというのは、神様じゃあるまいし、我

々のレベルじゃとてもわかりません。それが契約の段階までもういっちゃったということになると、もう少し議員としたって、ない頭ですけれども絞って、市民にも — 私らは市民とのパイプ役なんですから、そういう意味では市民にこうだということも、もう少し時間がないと — 急に出てきて、急に議決です。これは私は賛成しますけれども、なぜこんなに緊急に — もう少し議会の論議を — さっき全協で神田議員が言われていたように、もう少し煮詰めて、腹を割って、よりいいものへの討議ができなかったのか。1年生の議員ちょっとかわいそうだと思います。私は昔はそういうことについてよく勉強させてもらった議員ですけれども、これでするするといっちゃうと、将来議員としてなかなか内容なんか勉強できません。そういう面で、やっぱりもうちょっと腹を割って、議員個々にどういうことでどうだということをもう少し言ってもよかったんじゃないかと思うんですけれども、どうして緊急を要したのか、その点だけについてひとつ御答弁いただきたい。内容はもう結構ですから。

以上2点お願いします。

◎議長（福原 勤君） 建設部長。

◎建設部長（三平孝司君） まず、1点目の名称の決定のものでございますが、これは都市計画決定をする必要があったというのがございます。これは平成4年の2月に都市計画審議会を開きまして決めまして、県の都計審に上げて、このときに鏡ヶ浦クリーンセンターということで決定がなされてございます。

それともう一点、緊急に決定しなくてはならぬということでございますが、これは先ほどこっと御説明申し上げましたが、国の第3次補正に伴いまして、平成5年度で一部事業に着手しなくちゃならぬというのが出てまいりました。これが大きな原因でございます。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 他に御質疑ありませんか。神田守隆君。

◎21番（神田守隆君） 金額が大きいものですから、50億円というとびっくりしちゃう金額なものですから、第3次補正の兼ね合いで出てきたという

のは、それはそれでわかるんですけれども、この50億円、随意契約でということを出てきたんですけれども、これはどういう根拠によるものが50億円なのか、その積算根拠はどんなふうになっておるのか、お示しをいただきたいと思うんです。

それで、今お手元にもしあれば、同規模の下水道事業の終末処理場に関して、同様の契約で大体幾らで契約しているところがあるとか、我々は50億円と言われても見当がつかないわけで、そこら辺についての御説明をいただきたいと思うんです。

◎議長（福原 勤君） 建設部長。

◎建設部長（三平孝司君） 50億の事業費の算出根拠でございますが、これは当然事業団が年度ごとに実施設計を組んでいくわけでございますが、全国で事業団が1,100カ所ぐらいの事業をしております。そういう中で、同規模のものから算定をされたというものでございます。

それと、同規模の現在の事業費はどのくらいかということでございますが、ちょっとそこまで調査はしてございません。

◎議長（福原 勤君） 神田守隆君。

◎21番（神田守隆君） そうすると、今の御答弁だと、随意契約といっても事業団の言い値ですね、これは。ですから、この50億が適切かどうかということの判断は市としてはしていないというふうに今のだと理解せざるを得ないんですけれども、言い値で果たしていいんでしょうか。そこらはどうお考えですか。

◎議長（福原 勤君） 建設部長。

◎建設部長（三平孝司君） 先ほど申し上げましたように、実績のある事業団等でございますので、私どもではその言い値といいますか、それが現在の適正な金額であるというふうに判断してございます。

◎議長（福原 勤君） 神田守隆君。

◎21番（神田守隆君） なぜ適正な価格なのかということを――我々は議会で判断をするんですけれども、事業団が言っているから適正だというふうに市は説明では言うんですけれども、果たしてそういうことでいいのかなと

というのが率直なところなんです。もっと具体的に、館山のこの規模の、日最大 7,100立方メートルの処理能力というような、こういうような処理能力の場合、具体的にどこでそういったものがつくられて、そしてこの下水道事業団が行った場合に幾らでやっているとか、具体的な数字はどこでどうだとか、例えば木更津で同じような規模のものを30億でやっていたというのに、館山では50億というんじゃないかと我々は判断するわけです。判断のしようがないんです、そういうことの資料がないというのでは。他市の状況あるいは他の事業の動向について御説明いただけないでしょうか。

◎議長（福原 勤君） 建設部長。

◎建設部長（三平孝司君） 先ほど答弁を落としましたけれども、一応事業団から事業費の算定がございまして、千葉県あるいは建設省等の中で十分協議をされた中で、事業費が適切であるというふうに市の方も判断してございます。

◎議長（福原 勤君） 他に御質疑ありませんか。――御質疑なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

委員会付託の省略

◎議長（福原 勤君） お諮りいたします。

本案については委員会の付託を省略したいと思います。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎議長（福原 勤君） 御異議なしと認めます。よって、本案については委員会の付託を省略することに決しました。

討 論

◎議長（福原 勤君） これより討論を行います。

討論ありませんか。

辻田 実君。

◎26番（辻田 実君） 今質疑をいたしましたけれども――私は賛成討論

でございます。だけれども、この議案は相当な内容でございますから、質疑の中でもって、第3次補正で緊急を要したということでございますけれども、追加議案でもって50億をさっさと通されて、内容も把握されていない。神田議員の言われるように、向こうの言いなりでやるような格好です、実際的には。これでいいのかどうなのか、市会議員としての職責を果たせるのかという問題があります、それは。ですから — 私はしかしながらこれに反対してどうということはないんですけれども、議会中だって、これは委員会付託は省略しましたけれども、当然最初に出て、委員会等でもって審議を詰めてここへ持ってくるというならまだ話はわかりますけれども、最後の土壇場へきでぽんと出されて、今の状況じゃ大変だと思います。それはもう過ぎたことですから結構ですけれども、これはそういう問題を残しておりますので、今後もっと議員に教えてください、事務局だけでなくて。そして、そのことと同時に市民にもこうだということをもうちょっと — 市の財政運営なり事業運営についてはガラス張りで行ってください。議員も見えないような形じゃいけないので、そのことを私は要望意見としてまず第1点つけ加えておきたい。

それから、名称の問題について、これはごく簡単なことです。簡単なことですけれども、これは見方によっては庄司市政の根幹にかかわる基本的な問題です。庄司市長はああいうものについては市民に相談して、市民から公募を受けたり、市民の納得のいくことでやるということをやっているものを、都市計画決定について決めなきゃならなかったということで事務サイドで決めちゃって、議会もこれをこういう形で承認してください。足引っ張るものではありませんから賛成はしますけれども、今後そういう格好でもって全部、市会なり何でも通じるということになりましたら大変な過ちを犯します。その点についてはもう少し議会にも前に行ってください。事務局だけで — 事務局は立派な事務局ですから信頼はしていますけれども、そういうものではないです。庄司市長というのは市民にガラス張り、何でもガラス張りで行うというのがあれですから、その足を引っ張るようなことをやってもraitakくない、このことを要望いたしまして、先ほどの質疑の中でもって、

時期が迫っている、やらなきゃならなかったということですから、これからひとつ全力を尽くして、一日も早く立派なものができることを要望いたします、これにつきまして私は賛成をいたしたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

◎議長（福原 勤君） 神田守隆君。

◎21番（神田守隆君） 難しい賛成討論の後で反対の討論ですが、率直に申しまして、この事業が50億という非常に大きな金額の工事契約で、私どもは先ほどの説明では、なぜ50億という、しかも随意契約ということの意味が了解できない。したがって、この契約については同意しないということで、反対といたします。

◎議長（福原 勤君） 他に討論ありませんか。 — 討論なしと認めます。よって、討論を終結いたします。

採 決

◎議長（福原 勤君） これより採決をいたします。

採決は起立により行います。

本案を原案どおり可決することに賛成の諸君の起立を求めます。

（賛成者起立）

◎議長（福原 勤君） 起立多数であります。よって、本案は原案どおり可決されました。

議案の上程

◎議長（福原 勤君） 日程第7、議案第25号人権擁護委員候補者の推薦についてを議題といたします。

議案の朗読を願います。

（書記朗読）

◎議長（福原 勤君） 朗読は終わりました。

議案の内容説明

◎議長（福原 勤君） 議案の説明を求めます。

庄司市長。

（市長庄司 厚君登壇）

◎市長（庄司 厚君） 議案第25号人権擁護委員候補者の推薦について、提案理由を御説明申し上げます。

平成6年2月28日をもちまして任期満了となりました人権擁護委員1名につきまして、人権擁護委員法第6条第3項の規定により候補者の推薦を求められておりますので、新たに河野幸子さんを最適任者といたしまして御推薦申し上げたいと存じます。

よろしくお願い申し上げます。

◎議長（福原 勤君） 説明は終わりました。

質 疑 応 答

◎議長（福原 勤君） これより質疑を行います。

御質疑ありませんか。 — 御質疑なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

委員会付託の省略

◎議長（福原 勤君） お諮りいたします。

本案については委員会の付託を省略したいと思います。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎議長（福原 勤君） 御異議なしと認めます。よって、本案については委員会の付託を省略することに決しました。

討 論

◎議長（福原 勤君） これより討論を行います。

討論ありませんか。 — 討論なしと認めます。よって、討論を終結いたします。

採 決

◎議長（福原 勤君） これより採決いたします。

本案を原案どおり可決することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎議長（福原 勤君） 御異議なしと認めます。よって、本案は原案どおり可決されました。

議案の上程

◎議長（福原 勤君） 日程第8、議案第26号館山市助役の選任についてを議題といたします。

議案の朗読を願います。

（書記朗読）

◎議長（福原 勤君） 朗読は終わりました。

議案の内容説明

◎議長（福原 勤君） 議案の説明を求めます。

庄司市長。

（市長庄司 厚君登壇）

◎市長（庄司 厚君） 議案第26号館山市助役の選任について、提案理由を御説明申し上げます。

館山市助役の小幡清之君が平成6年3月31日をもって任期満了となりますが、同君を助役として適任と考え、再任いたしたく、市議会の同意を得ようとするものでございます。

よろしく願い申し上げます。

◎議長（福原 勤君） 説明は終わりました。

質 疑 応 答

◎議長（福原 勤君） これより質疑を行います。

御質疑ありませんか。 — 御質疑なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

委員会付託の省略

◎議長（福原 勤君） お諮りいたします。

本案については委員会の付託を省略したいと思います。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎議長（福原 勤君） 御異議なしと認めます。よって、本案については委員会の付託を省略することに決しました。

討 論

◎議長（福原 勤君） これより討論を行います。

討論はありませんか。 — 討論なしと認めます。よって、討論を終結いたします。

採 決

◎議長（福原 勤君） これより採決いたします。

助役選任について同意を求める件は、これに同意することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎議長（福原 勤君） 御異議なしと認めます。よって、助役選任について同意を求める件は、これに同意することに決しました。

日程の追加

◎議長（福原 勤君） お諮りいたします。

ただいま発議案第2号地方分権の推進に関する意見書について及び発議案第3号北方領土問題等の解決促進に関する意見書についてが提出されました。この際、各議案を日程に追加し、議題といたしたいと思います。これに御異

議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

◎議長(福原 勤君) 御異議なしと認めます。よって、各議案を日程に追加し、議題とすることに決しました。

議案の上程

◎議長(福原 勤君) 発議案第2号及び発議案第3号を一括して議題といたします。

議案の配付

◎議長(福原 勤君) 議案を配付いたします。

(議案配付)

◎議長(福原 勤君) 議案の配付漏れはありませんか。 — 配付漏れなしと認めます。

議案の朗読は省略します。

議案の内容説明

◎議長(福原 勤君) 提出者の説明を求めます。

鈴木忠夫君。御登壇願います。

(17番議員鈴木忠夫君登壇)

◎17番(鈴木忠夫君) ただいま議題となりました発議案第2号及び発議案第3号について、提案理由を説明申し上げます。

まず、発議案第2号地方分権の推進に関する意見書についてであります。国から地方への権限委譲の推進、地方自主財源の充実強化など、地方公共団体の自主性、自立性を高める諸施策を早期に実現されるよう、国に対し要望しようとするものであります。

次に、発議案第3号北方領土問題等の解決促進に関する意見書についてであります。北方領土の返還実現は日本国民の長年の悲願であるにもかかわらず、なお未解決となっております。この際、問題の解決促進につき適切な

措置を講じられるよう、国に対し要望しようとするものであります。

両議案とも、お手元に配付のとおり、それぞれ8名の賛成者を得まして提案した次第でございます。

何とぞ満場の御賛同を賜りますようお願いいたしまして、提案理由の説明といたします。

◎議長（福原 勤君） 説明は終わりました。

質 疑 応 答

◎議長（福原 勤君） これより質疑を行います。

御質疑ありませんか。 — 御質疑なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

委員会付託の省略

◎議長（福原 勤君） お諮りいたします。

各議案については委員会の付託を省略いたしたいと思います。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎議長（福原 勤君） 御異議なしと認めます。よって、委員会の付託は省略することに決しました。

討 論

◎議長（福原 勤君） これより討論を行います。

討論はありませんか。 — 討論なしと認めます。よって、討論を終結いたします。

採 決

◎議長（福原 勤君） これより採決いたします。

採決は一括して行います。

各議案を原案どおり可決することに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

◎議長(福原 勤君) 御異議なしと認めます。よって、各議案はいずれも原案どおり可決されました。

閉 会 午後0時12分

◎議長(福原 勤君) 以上で本定例会に付議されました案件は議了いたしました。

よって、これにて第1回市議会定例会を閉会いたします。

◎本日の会議に付した事件

- 1 議案第2号乃至議案第21号
- 1 議案第23号乃至議案第26号
- 1 請願第17号
- 1 日程の追加・発議案第1号
- 1 日程の追加・発議案第2号及び発議案第3号

地方自治法第123条第2項の規定により署名する。

館山市議会議長

館山市議会議員

館山市議会議員